

# 市民の声を政策提案に 市民ネットワーク 議会通信

千葉市議会2011年第3回定例会報告(2011.9.6~10.4)

編集・発行 市民ネットワーク 千葉市中央区中央4-10-11 Tel043-201-2551 Fax043-223-7701 http://shimin-network.jp/



千葉市議会議員  
山田京子 湯浅美和子

今政治を変えるのは  
net  
ネットです

## 平成22年度も厳しい結果 千葉市の決算

景気が好転せず、高齢化もすすんでいることから、市税収入が大幅に減少し、国民健康保険特別会計の赤字が増えたため、22年度一般会計決算は、かろうじて約3億円の黒字。全会計での実質収支は約115億円の赤字となる厳しい決算でした。

しかし、大型の建設事業や債務負担行為(注1)をおさえ、市税の徴収に努めたこと、事業の見直しや経費の削減など健全化へ歩み始めていることを評価し、市民ネットワークとして、決算を認定しました。議会全体としても、賛成多数で認定されました。

### 脱・財政危機への道のり

自治体財政の健全度を判断する4つの指標で、千葉市は、22年度も政令市中ワースト1です。平成4年の政令市移行後、バブルがはじけても、身の丈を超えた大型開発を、途中見直しもせず続けた結果、その借金の返済が押し寄せてきています。まさに過去の失政のしりぬぐいと言えます。

熊谷市政になり、ようやく「脱・財政危機宣言」を発し、歳出の削減と、歳入の確保が進められています。

22年度は、敬老会やことぶき大学など高齢者事業の見直しや、イルミネーションなどイベントの中止が行われたため、一部批判の声がありました。しかし、真に予算が優先されるべきは、命にかかわること、最後のセーフティネットがしっかり確保されることです。「あったらいい」事業は、みんなで知恵を出し工夫をすることで、予算削減の影響をぐぐり抜けるべきではないでしょうか。

各種の見直しに関しては一定の評価をしますが、国民健康保険事業の119億円にのぼる累積赤字は、今後も繰り上げ充用(注2)を続けるわけにはいかず、さらなる対策が必要です。

### 豊かな市民社会を目指して

22年度からは「子ども未来局」ができ、子どもの虐待を扱う健全育成課で、DV防止対策も合わせて行うこととなりました。子どもを保護・指導・教育することだけでなく、子ども自身の育ちを支え、力をひきだす視点が加わったことは大事なことです。どんな状況にあっても、千葉市の子どもとして尊重されることが大切です。

また、今年度からは、「市民との協働事業」や「補助金の見える化」など、市民ネットが提案してきた試みも始まっています。市民の力を引き出し、自治する市民が増える地域社会を共につくりていきたいと考えています。

(注1)債務負担行為 事業が複数年度にわたる場合に、後年度の支出と、総額をあらかじめ設定して議決しておくこと

(注2)繰り上げ充用 決算時、歳入が不足する場合に、翌年度の歳入を繰り上げて、当該年度に充てること。平たく言えば歳入の前借り。

### 健全化判断比率(平成22年度決算速報値) 政令市比較

団体名	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
千葉市	—	2.87	21.4	285.3
札幌市	—	—	10.6	115.3
仙台市	—	—	11.9	155.2
さいたま市	—	—	6.1	47.6
横浜市	—	—	18.0	240.0
川崎市	—	—	11.9	120.1
相模原市	—	—	4.3	30.1
新潟市	—	—	10.8	119.0
静岡市	—	—	12.7	109.9
浜松市	—	—	12.2	64.5
名古屋市	—	—	12.1	216.4
京都市	—	0.16	13.2	236.3
大阪市	—	—	10.2	220.6
堺市	—	—	5.4	59.8
神戸市	—	—	12.9	172.4
岡山市	—	—	16.0	108.5
広島市	—	—	15.6	252.6
北九州市	—	—	11.7	166.0
福岡市	—	—	16.4	219.8
政令市平均(千葉市除く)			11.8	147.5

【注】 実質赤字比率・連結実質赤字比率は、黒字団体が「—」となるため政令市平均を算出していません。

## 決算審査特別委員会 分科会報告

### 第1分科会から

山田京子

前年度の予算の使われ方を審査する決算審査特別委員会は、全議員が2つの分科会に分かれます。決算は、「すでに使ってしまったお金」です。いまさら、あれこれ評価してもしょうがないような気もしますが、予算の執行状況をきちんと審査するのは、議会の大切な役割です。

仮に議会で「決算不認定」という結果になったとしても、実際、使い方をやり直すということにはなりません。しかし、不認定となれば、執行部への打撃は大きく、反省点を次の予算編成に活かざるをえません。

但し、いまの分科会審査のやり方では、不明な点についての質疑と意見に終わり、その事業の効果はあったのか、予算額は妥当だったのか、などの仕分けにはなっていません。今後の議会改革の中で、審査方法も検討されるべきだと思います。

第1分科会の担当は、財政局、総務局、総合政策局、子ども未来局、経済農政局、教育委員会、他行政委員会です。厳しい財政状況を受けての健全化への取り組み、市税の徴収、子どもの虐待に関し、千葉市長への指摘要望事項がまとめられました。

### 第2分科会から

湯浅美和子

第2分科会の審査項目は、市民局、保健福祉局、環境局、都市局、建設局、水道局、病院局所管の事業です。

#### 市民ネットがとりあげた主な質疑項目

- 消費者行政活性化基金の活用状況と成果について
  - 20年度、県は国からの交付金で基金を作ったが、残4億円について消費者庁長官通知により、放射能汚染からの食品の安全・安心確保のために活用することが可能となった。放射能対策への取り組みに千葉市としても活用すべき
- 生活保護の相談数と保護開始数の状況
  - 最後のセーフティネットである生活保護に至る前段階での支援の充実と周知が大切
- 子宮頸がんワクチン接種の実施状況及び副反応の周知について
  - 市民ネットはワクチン接種については慎重な態度をとっている。実施にあたっては効果と副反応をしっかりと認識することが必要
- 一人暮らし高齢者等見守り支援モデル事業の取り組み状況
  - 23年度までのモデル事業だが、今後も必要性があると考えられるので、継続を検討すべき
- 福祉タクシー券の利用について→ 状況の確認と、福祉有償輸送への利用拡大の必要性について
- 特定優良賃貸住宅事業の現状と終了に向けて→ 子育て世代への支援の継続について